

富山市水橋地区の試掘調査

発掘調査最前線

はじめに

富山県内で実施されている「農地整備事業（ほ場整備）」のなかでも、水橋地区ではこれまでの県営事業と並行して国営事業の指定を目指しており、広域かつ迅速に先進的な農業経営を進めようとしています。

こうしたほ場整備の工事に先立ち、県教育委員会では水田の下に眠っている遺跡の状況を確認する試掘調査を行い、遺跡が工事で破壊されないよう調整するための状況把握をしています。

今年度は水橋石政遺跡(1)、水橋狐塚遺跡(2)、小出城跡(3)、水橋小出遺跡(4)、水橋小池遺跡(5)、水橋専光寺遺跡(6)、水橋上砂子坂・下砂子坂遺跡(7)、水橋高寺遺跡(8)、水橋田伏遺跡(9)、田伏・佐野竹遺跡(10)、水橋北馬場遺跡(11)、水橋金広・中馬場遺跡(12)の12遺跡において、合計315ヶ所のトレンチを設定し、試掘調査しました。(番号は地図中の番号)

水橋地区は明治時代に常願寺川の流路が改修されるまで、度々氾濫の被害を受けた地域ですが、厳しい自然環境の下で営まれた昔の人々の生活を紹介します。



試掘調査でのトレンチ掘削



試掘調査した水橋地区の遺跡

古墳時代のムラが姿を現す

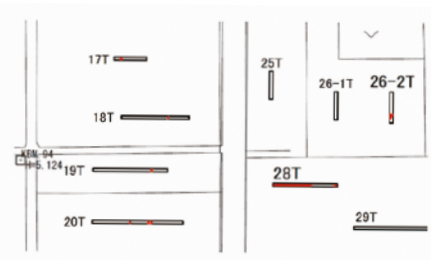
水橋小池遺跡

小池地内に所在し、水橋東部保育所の東に広がる南北に長い遺跡で、ほぼ中央を下条川が北へ流れています。調査はトレンチ49ヶ所を遺跡全体に設定しました。



26-2トレンチの土坑と土師器

遺跡中央に設定したトレンチでは、微高地上に土坑、溝などを確認しまし



水橋小池遺跡のトレンチ位置



28トレンチの溝や土坑と土師器

た。なかでも26-2トレンチで確認した土坑からは、古墳時代の土師器がまとまって出土しました。遺構を掘り下げてはいませんが、出土した土師器には外面に厚くススがこびりついた甕のほか、壺や高杯の破片も多く、竪穴住居の可能性が高いと考えられます。また、28トレンチの西側で確認した溝や土坑からも古墳時代の土師器がまとまって出土しました。これらは同時期の遺物です。

水橋小池遺跡は弥生時代終末期・古墳時代前期・古代の散布地として登録されていましたが、これまでの調査では、遺構も遺物も確認されていませんでした。しかし、今回の試掘調査では遺跡中央部、以前の調査箇所から僅か20m以北に広がる微高地上に、古墳時代の集落が存在し、人々のくらしの様子がみえてきました。

石鋸形石器を発見!

水橋田伏遺跡

注目される遺物として、1トレンチから出土した縄文土器と石鋸形石器があります。出土した地点は1トレンチの西端で、古代や中世の遺構検出面となる土層（地山と考えていた層）の上面から5cm程の深さからです。



水橋田伏遺跡のトレンチ位置

縄文土器は条痕文がある小破片ですが、石鋸形石器は長さ15cm、幅7.1cm、厚3.3cmの完形で、ともに縄文時代晩期のものです。

石鋸形石器とは、厚みのある背部にやや薄身の刃部がつく鋸状の石器のことで、日常的な道具ではなく、儀礼的なものと考えられています。その形態には背部が曲線的で刃部が直線的な半月形や背部・刃部ともに曲線的な長楕円形、背部・刃部ともに直線的な長方形のものなどがあります。

水橋田伏遺跡から出土した石鋸形石器は半月形で、背部が丸みをもち刃部はほぼ直線的で、薄く作られています。背部と刃部の境は緩やかな曲線を描き、表面はよく研磨されています。この石鋸形石器が当遺跡で作られたものか、他地域から持ち込まれたものかは、ほかに出土した石器と比較できない現時点では、明らかではありません。

富山県内での石鋸形石器の出土例



石鋸形石器の出土状況



石鋸形石器と縄文土器

は縄文時代晩期の遺跡からが主で、朝日町境A遺跡で3個体、魚津市早月上旬野遺跡で3個体、富山市豊田大塚遺跡2個体、布尻遺跡1個体、上市町丸山A遺跡1個体のほか魚津市天神山遺跡、高岡市(旧福岡町)上野A遺跡から出土したという報告があります。また、採集資料としては立山町天林北遺跡、魚津市本江A遺跡、砺波市孫子ワバラ遺跡などの報告があります。さらに、早川荘作氏が蒐集した資料の中には大川寺遺跡、文殊寺稗田遺跡、長沢遺跡、北代遺跡、金屋ポンポン野遺跡、菅ノ谷遺跡から採集された石鋸形石器があります。県内の全体的な傾向として、長方形のものがやや多いとみられます。出土状況では境A遺跡の土坑や豊田大塚遺跡の沼地の肩付近などの遺構から出土したものは僅かで、包含層からの出土と採集されたものが大半です。

水橋田伏遺跡の地形は石割川へ向かって緩やかに傾斜しており、4・5・6トレンチで確認した微高地上には、溝や土坑を確認しました。遺物には溝に伴って出土した中世土師器や越中瀬戸焼のほか、珠洲焼や須恵器などがあり、古代や中世から近世の集落が存在したことをうかがわせます。

おわりに

試掘調査は遺跡全体の数%だけを掘るため、遺跡の全容を浮かび上がらせることは容易ではありません。ただ、僅かな遺物や遺構であっても、その地域の歴史をひもとく貴重な資料となります。今後も埋蔵文化財の保護のために調査は続きます。(田中道子)